

# 民生産業常任委員会研修視察報告書

1. 実施日 平成29年10月11日(水)～10月13日(金)
2. 参加者
- |      |        |
|------|--------|
| 委員長  | 宮永 万里子 |
| 副委員長 | 澁木 茂   |
| 委員   | 中尾 大助  |
| 委員   | 堀越 幸広  |
| 委員   | 都丸 裕史  |
| 委員   | 山口 将   |
| 委員   | 森 昌彦   |
| 事務局  | 糸田 京子  |
3. 視察地 富山県魚津市  
石川県金沢市  
富山県射水市
4. 交通機関 公共交通機関
5. 視察結果 別紙のとおり

◎視 察 地：富山県魚津市

◎視察事項：子育て支援事業について

【市の概要】

面 積：200.61km<sup>2</sup>

人 口：42,406人（平成29年8月末日現在）

人口密度：211人/km<sup>2</sup>

魚津市は、富山県の東部に位置し、富山市から東へ25kmの距離にある。北東は、布施川を境に黒部市と、南西は早月川を隔てて滑川市・上市町と接している。北西には富山湾が広がり、「蜃気楼・埋没林・ほたるいか」が魚津市の三大奇観として良く知られている。南東部は、最大標高2,415m（釜谷山：毛勝三山のひとつ）に達する山岳地帯で、北アルプスに連なっている。これらの山々を源として、方貝川・布施川・早月川や角川などの河川が、市内を潤しながら富山湾に注いでいる。

市域の約70%が標高200m以上の急勾配な山地で占められ、台地から平坦地、海岸へとおだやかな斜面を形成している。海岸線は比較的平坦で、その延長は約8kmだが、海中では海底が急斜面となり深層まで落ち込んでいる。そのため、魚津の港は昔から良港として船の出入りが多く、海底の湧水に生まれ魚の種類も量も豊富で、魚津の名のごとく県下屈指の漁場として広く知られている。

【視察調査事項】

1. 子育て支援事業の概要について
2. 子育て支援事業に力を注ぐきっかけについて
3. 子育て応援サイトの工夫点について
4. 延長保育を行っていない保育園に通っている子どもの延長対応について
5. 育ナビうおづの詳細について
6. 育ナビうおづの住民評価について
7. 子育て支援事業の効果（出生率・若い家族の転入状況）について

## 【まとめ】

蜃気楼のまち魚津市は、典型的な地方都市であるが子育て支援がとにかく手厚い市である。魚津市子育て応援アプリ「育ナビうおづ」を無料で利用することができ、子育て情報・市からのお知らせ・母子健康手帳・育児記録を、自分のスマートフォンの中で管理できる施策をいち早く導入した先進地である。出生率が平成27年度は全国平均1.45のところ、魚津市では1.50と上回っている。子育て支援策が成功している自治体と言えらると思う。

現在の子育て世代は、インターネット利用率がパソコンからは6%減少、スマートフォンからは38%増加といったことから、スマホアプリから手元に自動通知する子育て支援を行っている。子育て家庭の精神的・身体的・経済的負担の低減を図るとともに、地域における各保育サービスやサービスの利用促進のための「とやまっ子子育て応援券」を保護者に配布している。

また、子育て支援の担当部署が教育委員会と福祉部にまたがった部署になっているところは大変画期的であると思う。

本町においても育児世代への負担軽減のために、また、少子高齢化の予防策としてのスマホアプリの導入など、子育て世代への様々な子育て支援施策の実施が急務であることを実感している。

## ◎視 察 地:石川県金沢市

## ◎視察事項:金沢版ネウボラについて

### 【市の概要】

面 積：468.64km<sup>2</sup>

人 口：454,416人（平成29年8月末日現在）

人口密度：969人/km<sup>2</sup>

金沢市は、石川県のほぼ中央に位置し、東は富山県境から西は日本海まで東西に23.3km、南は白山山麓から北の河北潟まで南北37.3kmの範囲にあって、市域の南部を白山山系から連なる山地が占め、北部は金沢平野を経て、日本海に臨んでいる。

金沢の町の起こりは、蓮如の北陸地方の布教により一向宗徒の勢力が強まり、農民を中心とした信者が加賀の守護富樫政親を高尾城に滅ぼした後、真宗本願寺の末寺を「金沢御堂」として建立し、加賀一向宗の中心とし、以来、寺のまわりには、後町、南町などの町がつくられたのが始まりと言われている。天正8年佐久間盛政により金沢御堂は攻め滅ぼされ、盛政はここに「金沢城」を築いた。天正11年盛政が賤ヶ岳で敗死したあと、七尾小丸山城にいた前田利家が金沢城に入城したのが、この年の6月14日と言われている。以来、加賀、能登、越中を合わせた加賀百万石の城下町として繁栄を続けることとなった。

明治4年の廃藩後、金沢町となり、明治22年4月1日市制が施行され、県庁所在地として行政、文化、経済の中心として発展を続け、大正13年以来、10数次にわたる隣接町村の合併により市街地規模の拡張を図り、平成8年には中核市に移行した。

### 【視察調査事項】

1. フィンランド語の（ネウボラ）のネーミング理由のについて
2. 母子健康手帳アプリの詳細について
3. 母子健康手帳アプリの導入までの経緯について
4. 出生率や若い家庭の転入状況について
5. 金沢版ネウボラの住民評価について
6. 金沢版ネウボラの効果について

## 【まとめ】

金沢市は兼六園、金沢城公園など歴史的建物や文化あふれる市であった。妊娠から出産、育児まで切れ目のない支援体制（金沢版ネウボラ）のためのワンストップ拠点（4箇所を整備している先進地である。

本庁舎及び福祉健康センターに、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談や支援のためのワンストップ拠点を整備したり、切れ目のない子育て支援をするため「かなざわ育みネットワーク」の連携を強化したり、身近に支援者のいない家庭へヘルパーを派遣し、産前産後の妊産婦の家事や育児の負担を軽減したりと、あらゆる支援体制があり、見習うべきところがあると感じた。地域に産科があるというのは重要なファクターであり、関係機関と連携を取り合うことも大切であることを強く感じた。

また、「母子健康手帳アプリ」をNPO法人が主催するアプリケーションを選択し運用費用（38万円／年）も大幅に削減している。

スマートフォンの普及は周知のとおりであり、本町においても母子健康手帳アプリの導入は今後の施策の1つであり、情報の共有についても即効性・保存性に有効な施策であると考えられる。課題は、アナログ（既存）の母子健康手帳との併用である。

今後、子育て支援施策における役割は、ますます大きくなって行くものと感じた。

## ◎視 察 地:富山県射水市

## ◎視察事項:空き家対策事業について

### 【市の概要】

面 積：109.43km<sup>2</sup>

人 口：93,600人

人口密度：855人/km<sup>2</sup>

射水市は、平成17年11月1日、射水郡の全町村（小杉町・大門町・大島町・下村）および親湊市が合併して射水市が発足した。環日本海交流拠点である富山県のほぼ中央に位置しており、東西を県下2大都市である富山市、高岡市に隣接している。富山県を代表する大河である神通川・庄川の間広がる射水平野の大部分を占める半径約7kmのまとまりのある地域であり、県土面積の約2.6%を占めている。射水平野は、中小の河川や地下水に恵まれた土地として古くから栄えてきた。

古代の人々は、水の湧出を表す言葉「イ」・「ミズ」にちなんで、この地を「イミズ」と呼んだと考えられている。漢字の「射水」という地名は、奈良時代、「万葉集」の中で初めて登場する。713年に朝廷が「近畿地方・七道諸国・郡・郷の名前を縁起の良い地名にと命令を出して、「伊弥頭」「伊美都」など様々だった地名表記を「射水」に統一されたと考えられている。

### 【視察調査事項】

1. 空き家の状況について（件数や支援制度利用数など）
2. 空き家バンクの概要について
3. 空き家バンクのシステム構築方法について
4. 空き家の管理状況について（支援体制など）

### 【まとめ】

平成28年9月に新庁舎を竣工した射水市は、近代的な建物とシステムが同調した高効率の業務を遂行している。

全国的にも課題とされている「空き家対策」は、空き家情報バンクの運営にて空き家所有者、定住希望者、地元不動産業者、射水市が相互リンクして空き家の

有効利用を図っている。業者、射水市が相互リンクして空き家低減を図っている。さらさら射水移住支援補助金や、指定宅地取得助成金の充実、子育て世帯等に対する住宅ローン「フラット35」優遇金利適用、移住交流生活体験施設補助、地域おこし協力隊による移住に関する情報発信など、特に明日の射水を担う若者定住助成金と若者世帯定住家賃補助は、若者を引き込むために有効な制度であると感じた。

また、空き家の解体補助事業も実施しており、損傷度を4段階に区切り、損傷度のひどい2段階については、上限50万円までの解体工事費の助成を実施している。

空き家バンクについては、予想以上に空き家バンクの利用が多くなく、促進に課題があることも感じた。

本町においても、平成28年12月1日から施行の大泉町空家等対策の推進に関する条例、平成29年5月に策した大泉町空家対策計画は開始したばかりであり、スピード感をもって真剣に取り組んで行かなければならない重要施策である。